

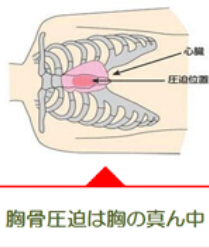
倒れている人をみたら

心肺蘇生の手順

1. 肩をたたきながら声をかける
2. 反応がなかったら、大声で助けを求め119番通報とAED搬送を依頼
3. 呼吸を確認する



4. 普段どおりの呼吸がなかったら、すぐに胸骨圧迫を30回行う
5. 胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行う



約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を、2回吹き込みます。



- ・口対口の人工呼吸がためらわれる場合
- ・一方弁付人工呼吸用具がない場合
- ・血液・嘔吐物などにより感染危険がある場合

人工呼吸を行わず、胸骨圧迫を続けます

※人工呼吸用マウスピース等を使用しなくても感染危険は極めて低いといわれていますが、感染防止の観点から、人工呼吸用マウスピース等を使用したほうがより安全です。

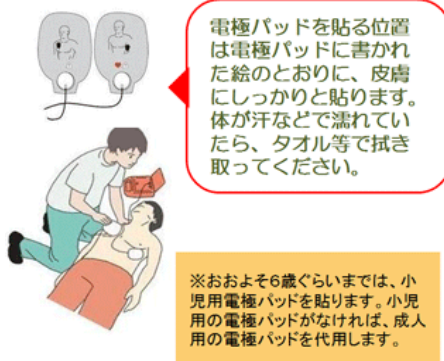
胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います

6. AEDが到着したら



ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。

7. 電極パッドを胸に貼る



8. 電気ショックの必要性は、AEDが判断する



心電図解析中は、傷病者に触れてはいけません。

9. ショックボタンを押す

誰も傷病者に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します。



以後は、AEDの音声メッセージに従います。

心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や目的のあるしぐさ(例えば、嫌がるなどの体動)が出現したり、普段通りの呼吸が出現するまで続けます。

AEDのパッドを貼るときの注意点

●傷病者の胸が濡れている場合

濡れている場合は、タオル等でふき取ってから電極パッドを貼ります。

●胸に貼り薬があり、電極パッドを貼る際に邪魔になる場合

胸に貼る薬で、電極パッドを貼る際に邪魔になるものとして、ニトログリセリン製剤や喘息薬などがあります。

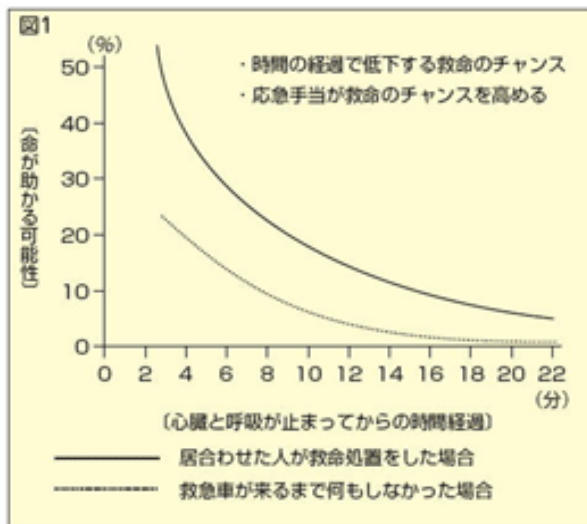
これらの薬が貼られている場合は、それをはがして、肌に残った薬剤をふき取ってから電極パッドを貼ります。

●心臓ペースメーカーや除細動器が胸に植込まれている場合

胸の皮膚が盛り上がり、下に固いものが触れるのでわかります。電極パッドを貼る位置に心臓ペースメーカーや除細動器の出っ張りがあるときは、そこを避けて電極パッドを貼ります。

●成人には、小児用電極パッド（小児用モード）は使用しないでください。

救命の可能性と時間経過



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

救命の可能性は時間とともに低下しますが、救急車が到着するまでの間、居合わせた人が応急手当を行うことにより、救命の可能性が高くなります。

心肺蘇生のまとめ

胸骨圧迫	位置	胸骨の下半分 (胸の真ん中を目安)
	方法	両手 (体型によっては片手)
	深さ	約 5 cm (深さは体格に合わせる。 小児では胸の厚さの約1/3 沈み込む程度に圧迫)
人工呼吸	テンポ	100~120回/分
	量	胸の上がりが見える程度
	回数	2回

応急手当の方法は、さまざまな研究や検証を重ね、原則5年に1度、より良い方法へ改正されています。新たな応急手当の方法は、それまでの方法を否定するものではありません。大切なことは、目の前に倒れている人を救うために「自分ができることを行う」ことです。

緊急の事態に遭遇したときに適切な応急手当ができるように、日頃から応急手当を学び、身につけておきましょう。

※その他、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。